

連載企画—音の博物館—

Ringve 博物館*

U. Peter Svensson (ノルウェー科学技術大学音響研究所)**・

Mats Krouthén (Ringve Museum)***・

抄訳：阪上公博 (音響教育調査研究委員会/神戸大学)****

Ringve Museum は、ノルウェーの国立音楽・楽器博物館で、トロンハイム市にあります。ここは、世界各地から集められた約 1,800 点もの楽器を展示しています。そのうち、約 700 点はヨーロッパ及びそれ以外の伝統的、古典的な楽器です。これに加え、25,000 点もの楽譜、写真、録音などの資料を所蔵しています。

鍵盤楽器では、1600 年ごろのイタリア製ヴァージナル、管楽器では 1700 年ごろのアルト・リコーダ、弦楽器では 1612 年アマティ製ヴァイオリンをはじめとする、貴重な歴史的名器がそろっている一方、1968 年製の初期のシンセサイザも展示されています。

ノルウェーの伝統楽器のコレクションも充実しており、18 世紀のハルダンゲル・フィドルや、langeleik と呼ばれるツイターに似たノルウェーの民族楽器など、国内各地方で様々な機会に使用されてきた古い楽器が集められています。ヨーロッパ以外では、アジア、アフリカ、アメリカなど各大陸を代表する伝統楽器が展示されています。

これらの所蔵品は、二つの建物に分かれて展示されています。ひとつは、本館 Manor House での展示で、創設者 Victoria Bachke によって 1952 年にオープンしました。これは、1880 年代の邸宅を利用した建物で、内装も当時のままです。ガイドツアーのみ入館できるようになっており、ガイドによるデモ演奏も行われます。この建物は、気候条件の理由で夏季のみの開館です。一方、Barn (納屋) における展示は 1999 年にオープンして以来、社会生活や家庭生活における音楽活動の様々な側面、例えば 300 年前のピアノの発明から、今



図-1 Ringve Museum 本館



図-2 クラヴィコードを弾くガイド



図-3 Barn での展示

世紀のジュークボックスや、エレキギターにいたるまでが展示されています。この Barn には売店や、かつての既舎を改造した小ホールもあります。これらに加えて、ノルウェーの民族楽器保存のための研究施設も併設されています。

この博物館は、創設者 Victoria Bachke による楽器のコレクションが発展したのですが、彼女は世界中を旅行し、幅広い人脈を生かし、根気強く交渉を続けることによって、膨大なコレクションを実現したのです。

更に詳しい情報は、同博物館ホームページ <http://www.ringve.no/> (英語) でも見られます。

* Ringve Museum.

** U. Peter Svensson (Acoustics Research Centre, NTNU, Trondheim, NO-7491 Norway)

*** Mats Krouthén (Ringve Museum, Lade Allé 60, NO-7041 Norway)

**** Translated by Kimihiro Sakagami (Committee of Education, ASJ/Kobe University, Kobe, 657-8501)